

E型肝炎・E型肝炎ウイルスについて

【E型肝炎・E型肝炎ウイルスとは】

肝臓の病気の一つである肝炎を起こすウイルスにはA型、B型、C型、D型、E型肝炎ウイルスなどいくつかの種類があります。E型肝炎ウイルス（HEV）の感染によって起こる肝臓の病気がE型肝炎です。

【E型肝炎の症状について】

HEVに感染した方のほとんどは、自覚症状がまったく出ないまま自然に治ってしまいます。ところが、一部の感染者では、①身体がだるい ②食欲がない ③発熱 ④吐き気がする ⑤黄疸が出るなどの急性肝炎の症状があらわれます。重症化することは少なく、発症しても1～2か月で肝炎は治り、その後慢性化することはほとんどありません。しかし、ごくまれに激しい症状（劇症肝炎）を起こして死亡する例が国内でも報告されています。また、最近では手足のしびれ等の神経障害を伴う場合があることも報告されています。

【E型肝炎ウイルスの感染源・感染経路について】

衛生環境の整っていない発展途上国などでは、主にHEVに汚染された水や食物の飲食により感染することがあります。わが国では、ブタ、シカ、イノシシなどの動物の肉や血液、糞便からHEVが検出されており、それらの動物の生肉やレバー、ホルモンなどを食べて感染する例が報告されています。特に、感染した動物の肉を十分加熱せずに食べることが危険とされていますが、それらを扱ったまな板などの調理器具、食器、箸などを介してHEVに感染する可能性もあります。HEVは感染者の便や唾液にも排出されますので、これらを介して感染する可能性も否定できません。しかしながら、E型肝炎の半数の例では原因が不明とされています。日常生活においては、接触や咳・くしゃみなどを介して感染者から他の人へ直接HEVが感染することはありません。

いっぽう、HEVに感染した献血者の血液を輸血された患者さんが、E型肝炎を発症した事例が確認されており、輸血によりHEVが感染することが明らかになっています。

【献血血液のE型肝炎ウイルス検査について】

日本ではこれまで、輸血によるHEV感染が毎年数例報告されています。ほとんどの場合患者さんは治癒していますが、輸血によるHEVの感染を防ぐため、日本赤十字社では全国のすべての献血者を対象に、令和2年8月よりHEV検査を実施することにしました。